

聖所からの光



上巻

THE LIGHT FROM THE SANCTUARY NO.1

聖所からの光

上巻

目次

第一部 聖所の目的と構造、奉仕…… 3

第二部 聖所の回復…… 53

第一部

～聖所の目的と構造、奉仕～

予型

图 1

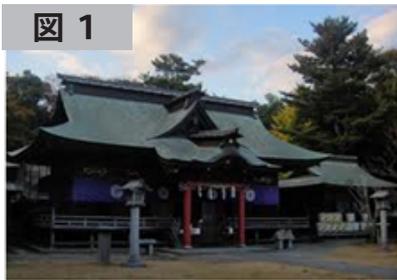


図 1 の説明

患難から栄光へ上巻 6 頁に、

「ユダヤ制度の…型や象徴の全体系は福音が
ぎっしり詰まった預言である」と書いてあり
ます。

「天の聖所は、人類のためのキリストのお働き
の中心そのものである。それは、地上に生存
するすべての者に関係している。」 各時代の
大争闘下 222

聖所は真理の全体系を明らかにしていますので
非常に重要な研究です (各時代の争闘下 138)。

第一部では、聖所の目的とその構造、奉仕につ
いて学びます。第二部では、聖所の回復について
学びます。

創造主の宮—聖所の目的

お住みになる宮を、聖書ではいろいろな言葉で
表現されています。聖所とか、神殿とか、幕屋と
も言われています。

どこの国においても、人間は神様のための神殿、
宮、聖所を豪華に作って、そこで礼拝をするため
に行きます。民族ごとにそれぞれの礼拝場所があ
り、たくさんのお金を使って巡礼をします。メッ
カに行く人もおれば、バチカンの聖ペテロ神殿に
巡礼の旅をする人もいます。またそれぞれの地域
の神殿、宮、神社、お寺にお参りしたり、教会に
行きます。

しかし、聖書は次のように言明しています。

「この世界と、その中にある万物とを造った神
は、天地の主であるのだから、手で造った宮
などにはお住みにならない。また、何か不足
でもしておるかのように、人の手によって仕
えられる必要もない。」使徒行伝 17:24,25

图 2



図 2 の説明

では、**神様はどこに**お住みになるのでしょうか？

イザヤはこう言っています：

「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる、「わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕ける者の心をいかす」イザヤ書 57:15

「輝く聖なるセラフ（天使）から人間にいたるまで、すべての被造物が創造主の内住される宮となることが、永遠の昔から神の目的であった。」各時代の希望 上 186 頁

つまり、神が御住みになるところは二か所あるのです。

一つは、全宇宙の中心の神のみ座、

二つは、天使たちと人間も含めた知的存在者たちです。

図 3

真の幕屋なる聖所
ヘブル8:2



モーセ、イザヤ、ダニエル、ヨハネ、パウロも天の聖所を見た。

図 3 の説明

聖書は、まず第一に、天に真の神の幕屋、宮、聖所、神殿があることを多く述べています。

モーセが荒野で聖所を造ったとき、それは、「天にある聖所のひな型と影」でありました。

「彼ら（地上の祭司たち）は、天にある聖所のひな形と影とに仕えている者にすぎない。」ヘブル書 8：5

「このように、天にあるもののひな型は、これらのものできよめられる必要があるが、天にあるものは、これらより更にすぐれたいけにえで、きよめられねばならない。」ヘブル書 9：23

そのことを教えるために、神は昔、モーセに聖所を造るように命じられました。

出エジプト記 25:8「彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。」（出エジプト記 25:40、26:30、27:8 参照）

モーセもイザヤも、ダニエルも、ヨハネも、パウロも天に聖所があること証しています。

图 4

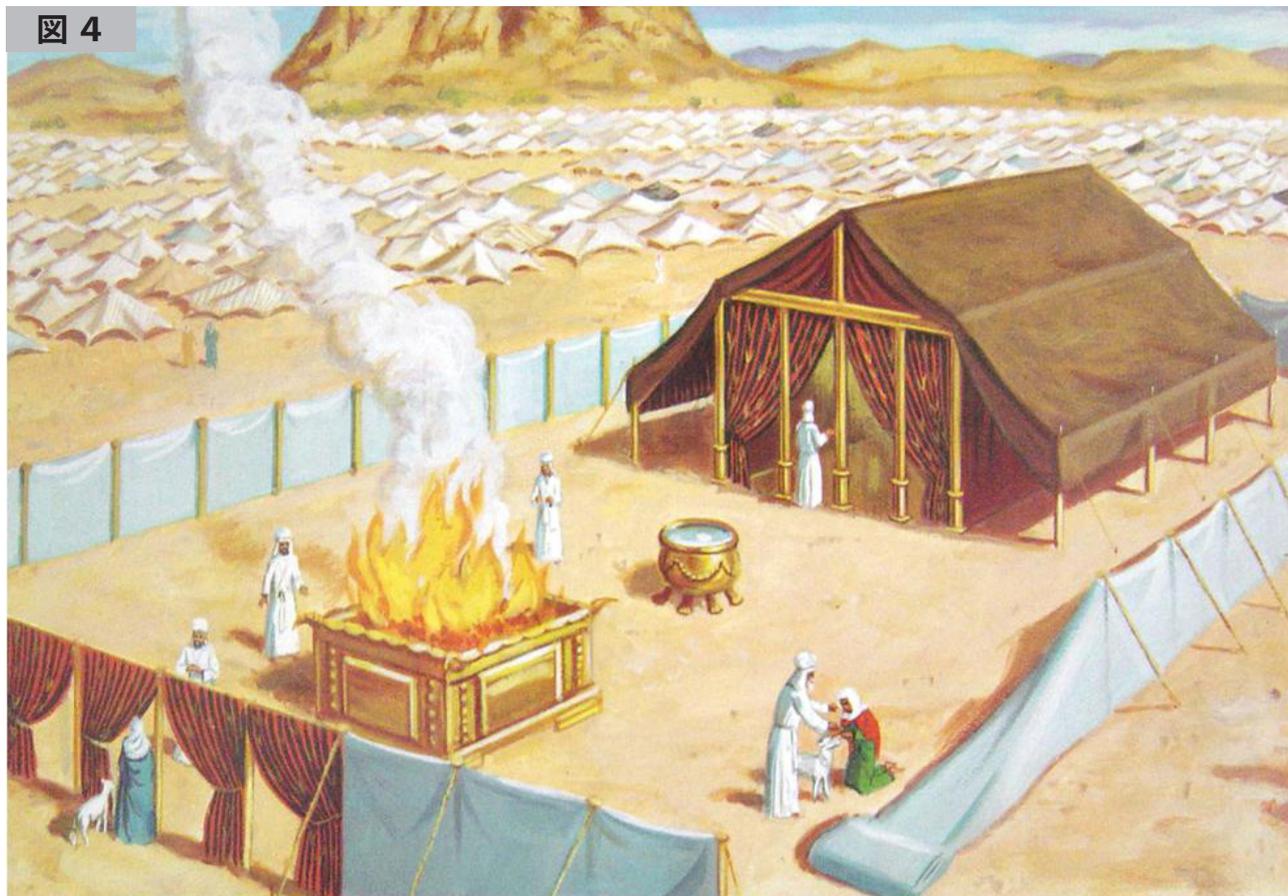


図 4 の説明

後にソロモンはモーセの原型を基にして大きな神殿を作りました。

「しかし神は、はたして地上に住まわれるでしょうか。見よ、天も、いと高き天もあなたをいれることはできません。ましてわたしの建てたこの宮はなおさらです。」列王記上 8：27

「一つの川がある。その流れは神の都を喜ばせ、いと高き者の聖なるすまいを喜ばせる。神がその中におられるので、都はゆるがない。神は朝はやく、これを助けられる。」詩篇 46：4

「あなたはさきに心のうちに言った、『わたしは天にのぼり、わたしの王座を高く神の星の上におき、北の果なる集会の山に座し、雲のいただきにのぼり、いと高き者のようになろう。』」イザヤ書 14：13,14

「しかし、いと高き者は、手で造った家の内にはお住みにならない。預言者が言っているとおりである、『主が仰せられる、どんな家をわたしのために建てるのか。わたしのいこいの場所は、どれか。天はわたしの王座、地はわたしの足台である。』使徒行伝 7：48,49

私たちは、神を求めてエルサレムに、メッカに、富士山麓のどこかに行く必要はありません。どこでも、いつでも天の神の御住みになる宮に向かって祈り、礼拝をすることができます。(ただし、第七日安息日は創造主が定めた礼拝の日であることを忘れてはなりません)。

图 5



図 5 の説明

そして、第二に、神が最も関心を持っておいでになるのが人間です。

「われなんじに感謝す。我は畏るべく奇すしくつくられたり。なんじのみ業はことごとくくすし。」(英語欽定訳、明治、大正、文語体)

「わたしはあなたに感謝をささげる。わたしは恐ろしい力によって驚くべきものに造り上げられている。御業がどんなに驚くべきものかわたしの魂はよく知っている。」(新共同訳)
詩篇 139 : 14

人間は、神の被造物の中で最もすばらしい、神の傑作でありました。なぜなら、聖書にこう書いてあります。

「神はまた言われた、『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の

魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべてのこのものを治めさせよう。』」
創世記 1:26

「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。」 創世記 1:27

図 6

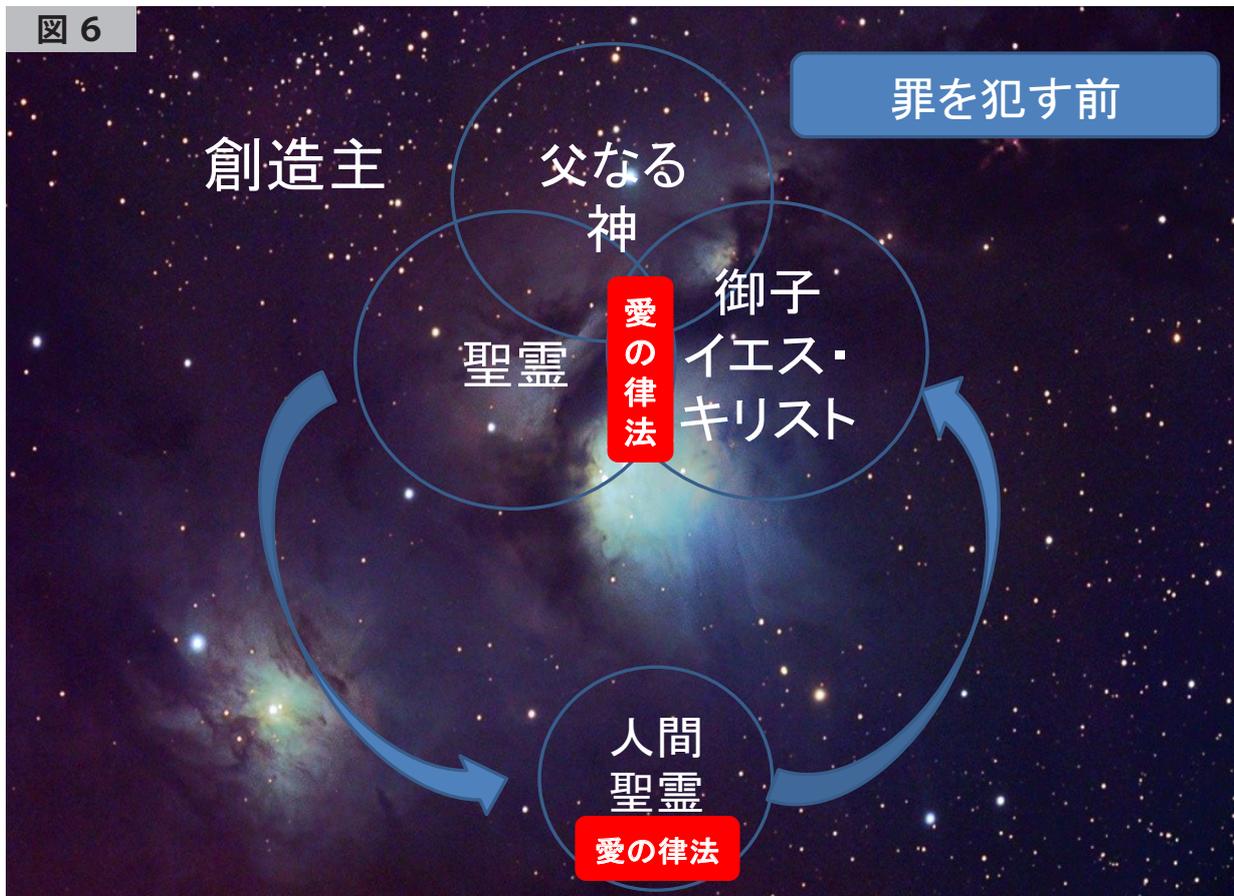


図 6 の説明

創造主の傑作として造られた人間こそ神がお住みになる「生ける神の宮」だからです。

「彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。」出エジプト記 25：8

荒野の聖所を造り終えたときに、神の栄光の雲があったように、人間という聖所、幕屋は、神の栄光のために造られたのでした。

「すべてわが名をもってとなえられる者をこさせよ。わたしは彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた。」イザヤ書 43:7

善悪の大争闘の中で、人間を通して、全宇宙の被造物に、ご自分のみ名と、ご品性を擁護し、神の栄光のために、サタンの挑戦に答えるために造

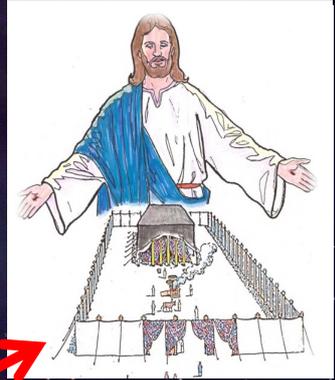
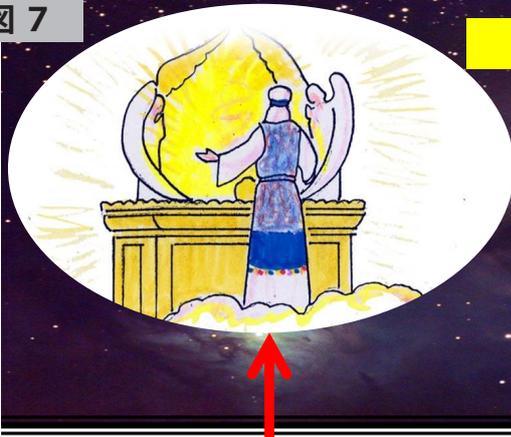
られたからです。

人間は、聖霊を通して神が宿られ、愛の律法が心に記されていました。

聖霊は神の御霊—神の霊ともキリストの霊（ローマ 8:9、ピリピ 1:19、1 ペテロ 1:11）とも言われています。（マタイ 3:16、ローマ 8:9,14、1 コリント 2:11,14、3:16 その他）

図 7

天の聖所



ヘブル10:5
ヨハネ2:21

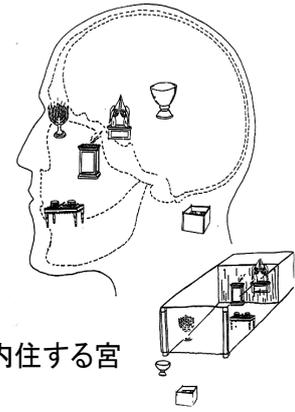
地上の聖所

“わたしのために、からだを備えて下さった”
ヘブル10:5

天にある聖所のひな型、影
出エジプト25:40;26:30



出エジプト25:8



1コリント3:16、6:19

希望上186 創造主の内住する宮

図7の説明

イスラエル人に与えられた荒野の聖所は、天にある真の聖所のひな形として作られました。

地上の聖所は、三つの型でありました：

1. まず第一に天のひな型でありました。「そしてあなたが山で示された型に従い、注意してこれを造らなければならない」出エジプト記 25:40、26:30
2. 第二に、人間となられたイエス・キリストのひな型でありました。ヘブル人への手紙 10:5、ヨハネによる福音書 2:21
3. 第三にそれは、私たち人間が神の宮、住まいである象徴でありました。

人間、生ける神の宮

いくつか読んでみましょう：

「わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、「わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう」コリント人への第二の手紙 6:16
と言い、

第一コリント 3:16、19にも、私たちは、「神の宮」「聖霊の宮」であると言っています。

「輝く聖なるセラフから人間にいたるまで、すべての被造物が創造主の内住される宮となることが、永遠の昔から神の目的であった。」
各時代の希望上 186

図 8



図 8 の説明

罪を犯す前は、人間は聖霊を通して神が住まれる生ける宮でありました。愛の律法が心に記されていました。天と地は一つでありました。

しかし、この地上の神の宮である人間に大きな変化が起こったのです。もはや、人間は創造主の住まいとはならなくなってしまいました。

人間が神の住まいとならなくなった原因は何であったのでしょうか？

「ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。」イザヤ書 59:2

「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなった。」ローマ人への手紙 3:23

「罪のために人類は神の宮とならなくなった。人の心は、悪のために暗くなり、けがれたものとなったので、もはや聖なる神の栄光をあらわさなくなった。」各時代の希望上 186

罪はどのようにして入ってきたのでしょうか？

「このようなわけで、ひとりの人によって、罪がこの世にはいり、また罪によって死がはいってきたように、こうして、すべての人が罪を犯したので、死が全人類にはいり込んだのである。」ローマ人への手紙 5:12

「初め、人はすぐれた能力と調和のとれた精神を与えられていました。彼はまた人として完全で神と調和し、思想も純潔で、清い目的を持っていました。けれども、神に背いたため、その能力は悪に向けられ、愛は利己心と変わってしまいました。」キリストへの道 13

图 9

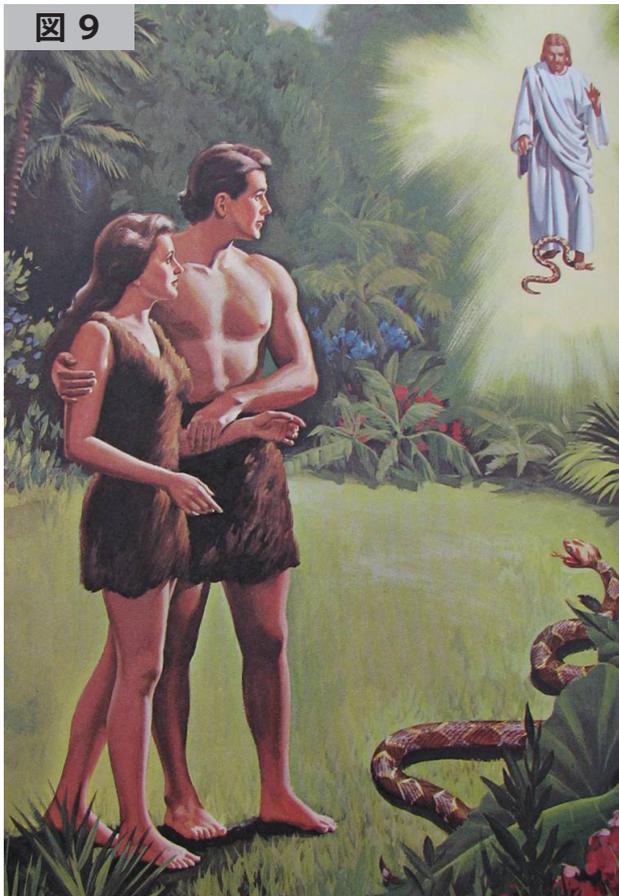


図 9 の説明

創造主と人類のコミュニケーションが断たれたのです。人間の心は、サタンと同じように愛は利己心にとって代り、サタンの精神が宿るようになったのです。

「なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。また、肉にある者は、神を喜ばせることができない。」ローマ人への手紙 8:7,8

「わたしたちもみな、かつては彼らの中にいて、肉の欲に従って日を過ごし、肉とその思いとの欲するままを行い、ほかの人々と同じく、生れながらの怒りの子であった。」エペソ人への手紙 2:3

「見よ、わたしは不義のなかに生れました。わたしの母は罪のうちにわたしをみごもりました。」詩篇 51:5

「この敵意(サタンに対する)は、人間が生まれながらに持っているものではない。人間は、神の律法を犯したときに、その性質は邪悪となり、サタンに敵対するのでなく、協調するようになった。」各時代の争闘下 243

しかし、神は、罪人を愛するために、神の小羊、イエス・キリストが人間の身代わりとなって死ぬことを早くから教えておられました。そのために小羊を殺して祭壇に生けにえとして捧げることが世々に伝えられてきました。

图 10



図 10 の説明

身代わりの死とその血による仲保によって、罪人が罪から清められ、罪が除去され、元の状態に回復され、人類が再び神の宮となるプロセスを教えるため、モーセに命じて荒野で聖所を作らせました。

「血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。」ヘブル人への手紙 9:22

荒野の聖所で、そして後のソロモンの神殿でも動物の生にえがささげられ、血が流され、その血をそそいで贖いをなすという儀式が、実体の世の罪を取り除く神の小羊が来るまで何千年も続けられました。

聖書の聖所は、罪人が再び神と和解し、一つになる道を教える最も単純なイラストであります。「あがない」という言葉は、英語で Atonement、At-one-ment と言います。「一つとなる」ことです。そのためには、神と罪人を隔てた罪、不義を処理しなければなりません。その罪の処理の方法が聖所に示されています。

あがないの真理を理解するためには、聖所の構造と、聖所で行われていた奉仕を理解する必要があります。